



キラリ
十和田人
— 第33回 —

楽しいから伝えたい ～能の世界～

たかはし みわこ
高橋 美和子 さん

PROFILE

十和田市出身。京都大学在学中に能楽サークルに所属。現在、宝生流能楽師藪克徳氏に師事。平成25年に教授嘱託として指導する免状を得た。

平成7年、青森県教職員となる。三本木高校、八戸高校などを経て、平成26年から青森県教育庁学校教育課高等学校指導グループ指導主事。

「青森県内で常設の能舞台がある市民ホールなどは、ここ十和田市民文化センターだけ」と話す高橋美和子さん。市が行っている市民企画型講座を活用して昨年12月に初回となる能楽講座を行いました。「能をやってみたい人にはその機会を見て楽しみたい人にはより理解が深まる機会を提供したい」と考えています。

能との出会いは、三本木高校2年の時に参加した、同センターでの青少年向けの能楽講座でした。「授業でやった創作ダンスは苦手でも能なら私に合っている。伝統の型の意味を考えながら繰り返し練習し、大きな声を出すことも魅力」と話します。中学生の頃、古い時代の都の言葉が、長い距離と時間を越えて各地の方言として残っていることに興味を抱き、たくさんの本を読んだと言います。能で演じられる遠い過去の作品に、現代にも通じる心情を見るときなど「古い日本や古典の世界が自分の中にも生きている」と感じ、能という古典を次の時代へつなぐ役割を楽しんでいます。

昨年10月には、東京の宝生能楽堂で開かれた、自身が師事する藪さんの同門会で、能の初シテ（主役）を務めました。舞や謡などそれぞれは芸として磨いてきましたが、「シテとして一曲を通して舞うことの難し



イエスアイノウ
市民企画型講座『Yes, I 能! 「能」って知ってる?』で教える高橋さん（写真右）

さに触れました。出発点に立って稽古に励みたい」と意欲を見せます。教職員としては、高校生の教え子たちに「演劇でもスポーツでも、音楽でもいい。自分に合った表現の手段を見つけてみよう」と指導します。「私が能と出会わずと前年から、十和田には能がありました。市民の皆様が『能は知っています。文化センターには舞台もあるよ』と言うようになれば」と目を輝かせます。古典に造詣が深く、快イタイミングで語りかけてくれるその笑顔は、包み込むように穏やかです。「難しいようでも、あらずじを知って鑑賞すると楽しめます」日本古来の美に触れる能の世界。その奥深い魅力を分かりやすく伝えるナビゲーターの活躍が楽しみです。